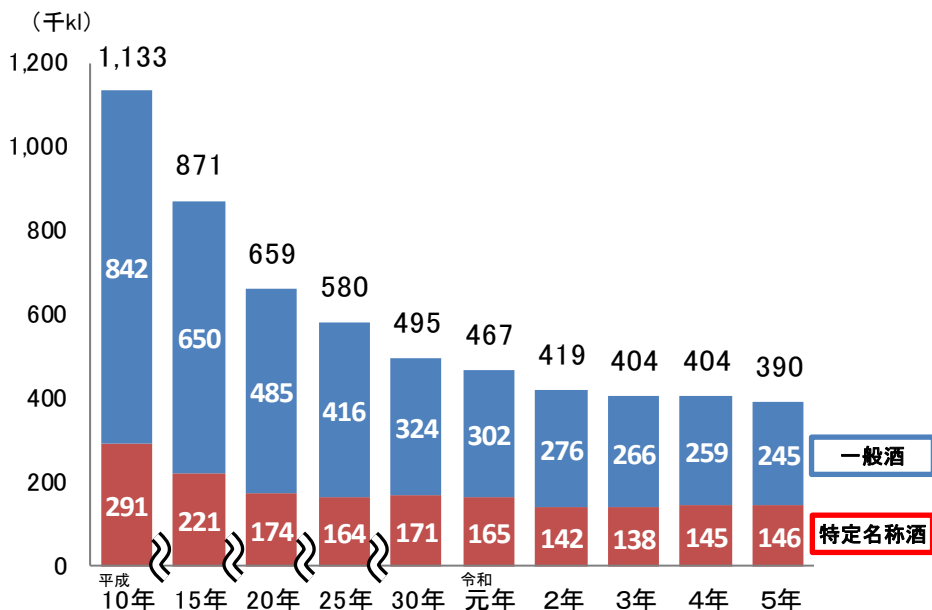


日本酒の需要動向と原料米の使用量について

- 日本酒原料米の使用量については、日本酒出荷量の減少に伴い減少傾向にある。
- 令和4年は、国内出荷量については、日本酒全体としては、前年と同水準で推移しており、一般酒が対前年比▲3%と減少する中、酒造好適米を多く使用する特定名称酒は対前年比+5%と増加。輸出量については、海外での日本食ブーム等を背景に対前年比+12%と増加。
- 令和5年は、国内出荷量については、特定名称酒は前年と同水準で推移したものの、一般酒が対前年比▲6%と減少し、日本酒全体としては、対前年比▲3%と減少。輸出量についても、アメリカ、中国等への輸出の減少により、対前年比▲19%と減少。

○ 日本酒の国内出荷量の推移



資料：日本酒造組合中央会調べ。年は暦年。令和5年12月分の石川県のデータが一部未集計となっている。

注1：国内出荷量は、清酒課税移出数量。

注2：日本酒は、一般酒のほか、原料、製造方法等の違いによって吟醸酒、純米酒、本醸造酒等に分類され、これらを総称して「特定名称酒」という。

注3：ラウンドの関係で計と内訳が一致しない場合がある。

○ 日本酒原料米の使用量

(単位：千トン)

	平成10年産	15年産	20年産	25年産	30年産	令和元年産	2年産	3年産	4年産
日本酒原料米	405	315	261	243	227	206	180	184	198
酒造好適米	99	75	77	76	88	83	70	67	73
加工用米	86	89	74	95	90	85	63	67	71
その他	220	151	110	72	49	38	47	50	53

資料：農林水産省による推計値。

○ 日本酒の輸出量の推移

(単位：kl)

	平成10年	15年	20年	25年	30年	令和元年	2年	3年	4年	5年	対前年比
日本酒輸出量	8	8	12	16	26	25	22	32	36	29	81%
アメリカ合衆国	1	2	4	4	6	6	5	9	9	7	72%
中華人民共和国	0	0	0	1	4	5	5	7	7	6	78%
香港	1	1	1	2	2	2	3	3	3	2	86%
台湾	4	2	2	2	2	2	2	3	3	3	101%
大韓民国	0	0	2	4	5	3	2	2	4	4	103%
その他	2	2	3	4	6	6	5	8	10	7	76%

資料：「貿易統計」(財務省)。年は暦年。

注：ラウンドの関係で計と内訳が一致しない場合がある。

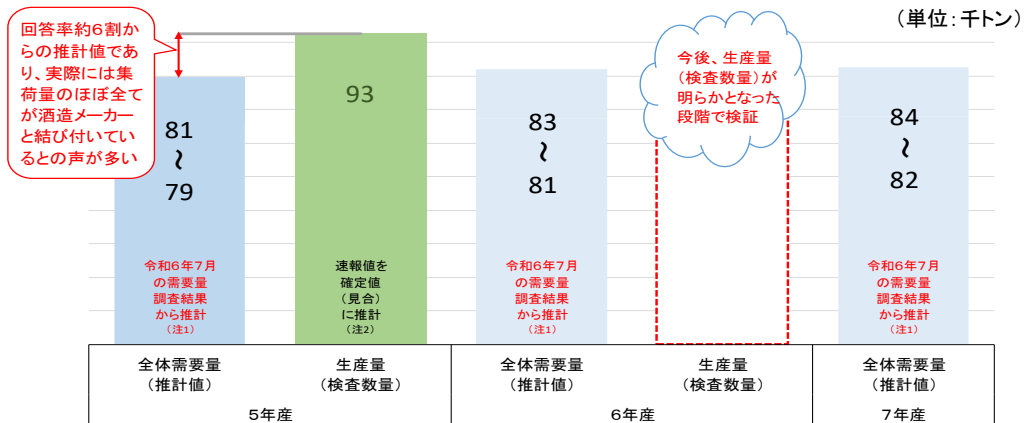
酒造好適米の需要に応じた生産について

- 酒造好適米の需要に応じた生産に向けて、生産及び実需の関係者による「日本酒原料米の安定取引に向けた情報交換会」を毎年開催するとともに、需要に応じた生産を行うための指標として、平成28年度から全酒造メーカーを対象とした酒造好適米等の需要量調査を実施。
- 令和6年7月に実施した需要量調査によると、令和5年産の全体需要量（推計値）は79～81千トン程度、令和6年産の全体需要量（推計値）は81～83千トン程度、令和7年産の全体需要量（推計値）は82～84千トン程度と見込まれる。
- 令和5年産については、生産量（推計値）が全体需要量（推計値）を12～14千トン程度上回っているものの、生産及び実需の関係者からは、実際には集荷量のほぼ全てが酒造メーカーと結び付いており、過剰感はないとの声が多く、その差は全体需要量を聞き取り結果（回答率約6割）から推計していることによるものと考えられる。
- 令和7年産については、各産地において、今後、全体需要量変動する可能性があることに留意するとともに、令和6年産の生産動向及び酒造メーカーからの最新の需要動向等を踏まえ、引き続き需要に応じた生産に取り組むことが重要。

調査の実施状況

	令和6年度
調査期間	令和6年7月
調査対象	酒造メーカー 1,205社
回答数	711社
回答率 (数量ベース)	81～83%

酒造好適米の全体需給状況の見通し（推計）



⑤ コメの輸出・輸入
